


# とよ・たち美月几通信

10月号 Vol. 135



# Fuka&kano

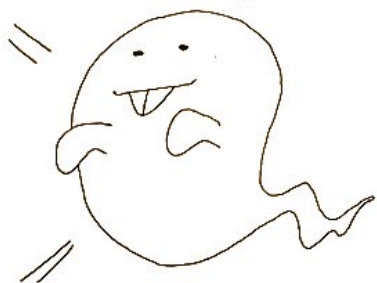


# October

今日号のとびたろ美肌通信の

表紙は、10月といえば

“ハロウィン”



かわいらしい不バケや ちょっとニくいカボチャど

楽しいハロウィンの夜になりそうぞりね!

「トリック オア トリート!!」しっかりお菓子もありますよー!!

仲よし姉妹が「2人で描いてくださいました♡」

ピアノを弾いたり、絵を描く事、ダンスが

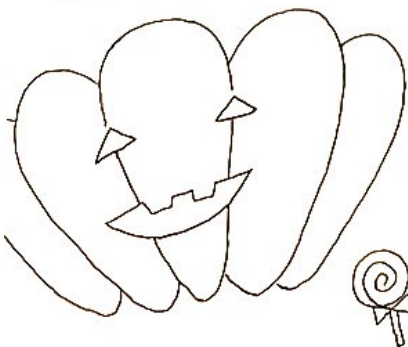
好きで、なわとびやスケートボードが得意な

女の子達が描いてくれました。

ありがとうございます!

院長はじめ スタッフ一同

バトリ 感謝いたします。



本邦のCOVID-19流行は5波を数えたか、9/20現在若干ではあるか減少に転じている。一方今冬にあたり、インフルエンザはかなりの患者数が出ると専門家等は予想している。その理由は昨年、例年以上に流行を抑制出来た事に伴い、免疫(抗体)を持たなくなったヒトが増えた為だと言うから何とも皮肉なものだ。いずれにしてもCOVID-19とインフルエンザの流行を避ける為にはマスク着用や手流いや含嗽は一定の効果をもたらす事は事実であるし、双方のワクチンも同様に抑制効果に深く寄与する事は疑う所ではない。

所で政治(行政)や(感染症の)専門家が自粛を訴える傍ら、マスメディアは「コロナ疲れ」という新語を都合良く編み出し、行き詰り感

や閉塞感を全面に押し出して来た。

そしてこの数年足らずで現代日本が作り出してきた、我慢なんてしなくていいんだよ、という風潮に後押しされ、本来の自分＝自然体の自分＝我慢しない自分を善良とする構図が成立している。

COVID-19の世界的大流行に伴い、国民の生活は閉塞感や行き詰りを感じると連日メディアで叫ばれているが、これは多大なる誤解の様に私には感じられる。つまり世の中が行き詰っているのではなく、それは自分自身がそんな、ているにすぎない。あえてもしそうであるならば、それは熱意と誠意が薄れてきている事に主因があるのだと思う。社会や世の中にこの二つが無いのではなく、各々の頭や体内にこれが欠けている様に思えてならない。

私も同様に我々はこの歴史に残る感染症を克服する為に今一度、熱意と誠意について考える時に至っていると思うこの頃である。

院長, 持